

表紙・裏表紙デザイン  
羽賀翔一  
発行・編集 つくば市

# つくば市未来構想 第2期つくば市戦略プラン

2020 ▶ 2050

2020 ▶ 2024

つながりを力に未来をつくる





## まちづくりの理念

つながりを力  
に未来をつくる

チ  
カラ



### 未来構想 とは

市の全分野のまちづくりの指針となる構想で、かつては「総合計画」と言われていました。まちづくり百年の計（百年先を見据えたまちづくり）の思想に基づき、研究学園都市のこれまでの50年の歩みを踏まえ、今後のまちづくりの指針を示すものとして、計画期間を21世紀半ば（2050年）としています。

### 構想の概要 ・背景

筑波山や牛久沼などの恵み豊かな自然、最先端の科学技術、世界に開かれた多様性など、今を生きる我々は、様々な資産を受け継いでいます。一方、高齢化や将来起こりうる少子化、中心市街地の活力低下などの多くの課題もあります。また、世界では、SDGs（Sustainable Development Goals）として、持続可能な社会の実現に向けた様々な取組が世界共通で進められています。そのような社会情勢に対応し、課題を克服しながら次の世代に継承・発展させていく「持続可能都市」を目指し、未来構想を改定しました。

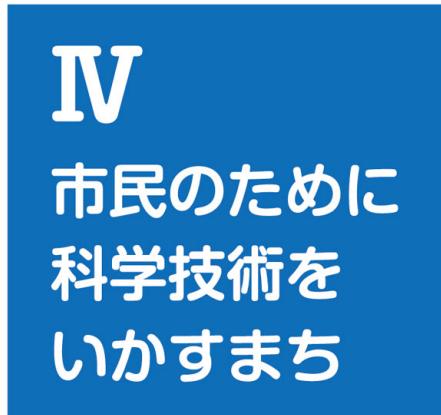
## I 魅力を みんなで 創るまち



## II 誰もが 自分らしく 生きるまち



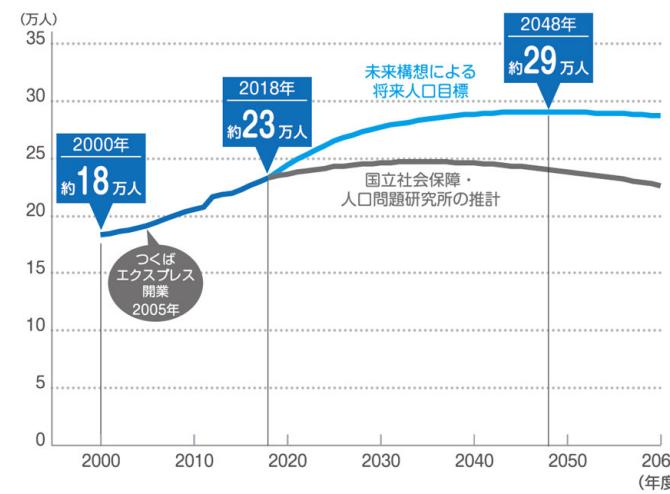
## III 未来を つくる人が 育つまち



# 人口と財政の将来展望



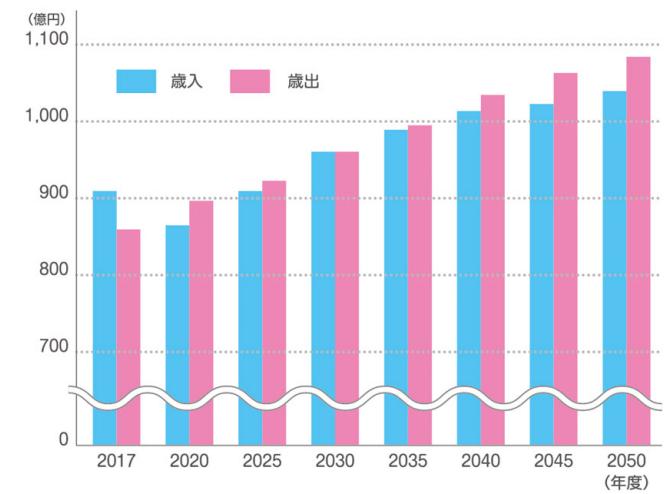
## 人口の現状と将来展望



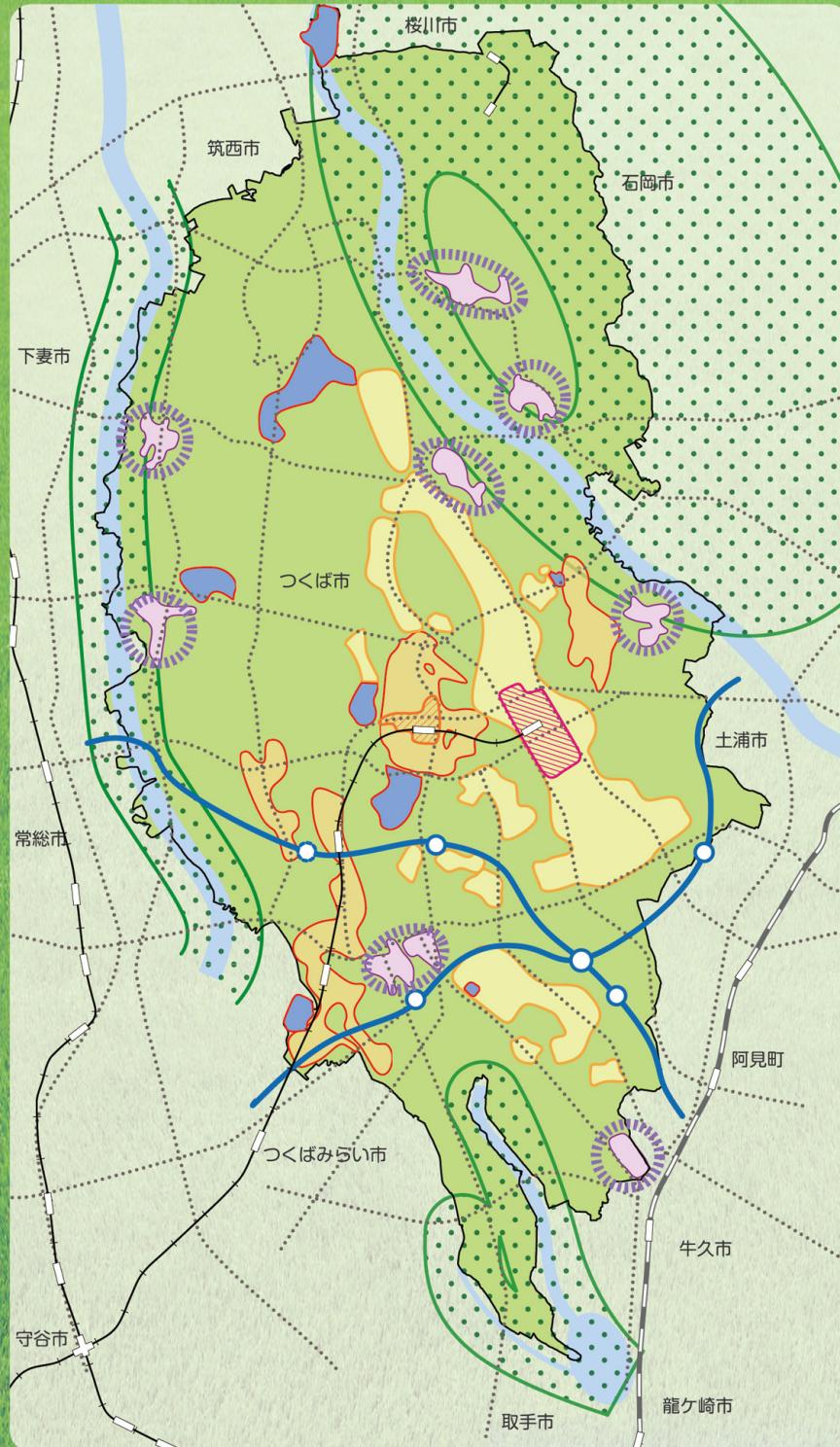
市内の人団は、TX沿線地域を中心に増加しています。一方、周辺地域では、単身高齢者の増加や人口密度の低下等が懸念されています。市内の高齢化率は全国平均よりも低いものの、今後も着実に増加する見込みです。そのため、引き続きファミリー層などの転入や出生率の向上を促進するとともに、高齢者人口の増加を考慮したまちづくりが必要です。

つくば市は、まちづくりの理念「つながりを力に未来をつくる」のもと地域の強みをいかした取組を進めることで、人口のピークの到来を遅らせ、その高さを大きくし、かつ水準を高く維持して行くことを目指し、2048年に約29万人となる将来展望を描きます。

## 財政の現状と将来展望



市の財政状況として、歳入では、同規模の自治体と比較して個人市民税や固定資産税等の市税の割合が高い一方、法人市民税の割合は低い状態です。歳出では福祉等の固定費の割合が増加傾向にあり、将来の投資に使える予算を確保していくことが課題です。今後もしばらくは人口の増加に伴い、個人市民税や固定資産税の増加などが見込まれるものの中長期的には歳出が歳入を上回る事態が予想されていることから、歳出を抑えつつ歳入を増やす行財政改革への不断の努力が必要です。



### 凡例

- 【田園都市ゾーン】
  - 研究学園都市地域
  - つくば市中心市街地地区
  - つくばエクスプレス沿線地域
  - 研究学園駅周辺地区
  - 産業集積地域
- 【田園集落ゾーン】
  - 周辺市街地地域
  - 地域生活拠点
  - 集落・里山地域
- 自然・観光ゾーン
- 自然・観光ゾーン

# 土地利用構想

土地利用にあたっては、今後も長期的に定住・関係人口等の増加・維持を図るために、緑豊かでゆとりある魅力的な居住環境を創出するとともに、新たな産業を創り出す拠点の形成を推進します。なお、今後の高齢化の進行を踏まえ、研究学園都市地域とTX沿線地域、従来からの市街地を生活の拠点とし、将来の集約型の都市構造への移行を考慮したまちづくりを進めます。

## 田園都市ゾーン

商業・業務・サービス機能や研究・教育機関、住居などの充実を目指します。あわせて、既存産業の集積や新産業の創出拠点を積極的に誘導し、緑豊かなゆとりある都市環境とともに、にぎわいをもたらす活力ある土地利用を促進します。

## 田園集落ゾーン

周辺市街地の生活拠点の利便性向上を図るとともに、伝統的な農業地域としての機能と景観が保持された土地利用を維持・促進します。

## 自然・観光ゾーン

豊かな自然環境を保全し、市民の憩いの場や多様な野生生物の生育・成育場所とします。また、参加型観光をはじめとしたレクリエーション空間を形成します。



# 未来像実現のための戦略プラン



## つくばが「つながる」ための視点

### 1 地域やコミュニティがつながる

既存の公共施設のみならず、官民の境目を問わず高齢者サロンや子ども食堂等の気軽に多くの方が交流できるたまり場のような拠点を増やしていくことを目指します。

### 2 知識や経験がつながる

ビジネスや研究等の様々な知識や経験を持った人達が気軽に集える場所や機会を設けることで、新たな挑戦やイノベーションを生み出すとともに、さらに入れ呼び込む好循環につながることを目指します。

### 4 市内外の応援する気持ちがつながる

市内外のつくばを応援する人たちの気持ちが行政参加やふるさと納税等の形を通じて事業につながる仕組みづくりを目指します。

### 5 中心地区と周辺地区が好循環でつながる

つくば市全体の持続可能性のためには、双方向で引きつけあう関係が理想です。中心・周辺地域をつなぐ双方向のヒト・モノ・コト・カネの流れを生み出し、好循環で地域がつながることを目指します。

### 3 社会の資源がつながる

行政や企業が持つ既存の施設や空間、時間等の資源をいかし、新たなものを単独で建てる・購入するだけではなく、必要なものを市・市民全体でシェアすることを目指します。

### 6 持続可能な選択につながる

持続可能都市をつくるのは、市民一人ひとりの選択の積み重ねであることを認識し、日々の選択が持続可能性を認識したものとなる施策を目指します。

## I 魅力をみんなで創るまち

市民が中心となり、多様なコミュニティを超えて顔と顔が見え、人と人がつながり、つくばならではの魅力を高め、世界に示すまち。

今後5年間で取り組むこと

施策の指標（例）

### I-1 市民と共に創るまちづくりを推進する

- 地域活動と市民チャレンジへの支援
- 区会加入及び新規区会設立促進と活動支援
- 市政への市民参加の推進
- SDGs普及による市民活動の促進

市政に市民が参加できる環境が整っていると思う市民の割合

29.4% → 40.0%

2019年 2024年度

### I-2 資源をみがき、魅力あふれるまちをつくる

- 豊かな農資源を輝かせることによる魅力の創出
- 豊かな資源をいかした観光の振興
- 文化芸術の推進及び文化財の保存と活用
- スポーツでつながるまちの推進
- 空き家・空き店舗等の有効活用の推進

つくば市の魅力を市外の友人に紹介したい（自慢したい）と思う人の割合

57.0% → 60.0%

2019年 2024年度

### I-3 つくばならではの街並みや体験を創出する

- 魅力ある研究学園都市地域の推進
- 地域資源をいかした持続的な周辺市街地の振興

これからもつくば市に住み続けたいと思う人の割合

53.5% → 56.2%

2019年 2024年度

### I-4 シティプロモーションを推進する

- 市民目線の効果的な広報の推進
- 市内外へ向けたPRの推進

つくば市に「愛着がある」と回答する人の割合

35.4% → 38.9%

2019年 2024年度



## II 誰もが自分らしく生きるまち

誰一人取り残されず、一人ひとりの安心が守られ、地域の隅々まで福祉がいきわたり、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、自然豊かで幸せがあふれるまち。

今後 5 年間で取り組むこと

施策の指標（例）

### II-1 地域が支え合い、医療、介護、福祉が充実したまちをつくる

- 世代や分野を超えた地域の居場所づくりの拡充
- 民生委員等のサポート強化と次世代の育成
- 認知機能低下等の支援策情報発信と相談体制の充実
- 地域で安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
- 障害者の自立に向けた就労等の支援

高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思う人の割合

31.4 % → 34.4 %  
2019 年度 → 2024 年度

住みやすい理由として充実した医療機関・福祉サービスを挙げる人の割合

32.1 % → 35.1 %  
2019 年度 → 2024 年度

### II-2 人生 100 年時代に生涯いきいきと暮らせるまちをつくる

- 一人ひとりのこころと体の健康づくりの支援
- 誰もがつながり役割を持つ社会参加の環境整備

健康寿命の延伸

80.9 歳 → 81.4 歳  
男性 79.4 歳 / 女性 82.4 歳  
2018 年度 → 2024 年度

### II-3 地域や市民一人ひとりの防災・防犯への備えを後押しする

- 市の災害対策の推進や公共施設の機能維持
- 自宅の安全・備蓄対策や地域での支え合いの推進
- 防犯意識を高め、安全・安心を実感できる生活環境づくり

地域の住民が協力して行う防犯活動へ参加している人の割合

15.8 % → 17.4 %  
2018 年度 → 2024 年度

### II-4 公共施設やインフラのマネジメントを推進する

- 公共施設・インフラの効果的な維持管理の推進
- 保有資産の有効活用の推進
- 保有資産の適正化
- 公共施設やインフラ管理への先端技術等の導入

公共施設・インフラについての「個別施設計画（長寿命化計画）」の策定数

5 計画 → 10 計画  
2018 年度 → 2024 年度

### II-5 多様な移動手段があるまちをつくる

- まちづくりを支える公共交通ネットワークの構築
- 自動車から自転車への転換の推進

日常利用する交通手段が自家用車である人の割合

85.8 % → 83.5 %  
2019 年度 → 2024 年度

### II-6 身近な自然を守り、楽しみ、持続させる

- 身近な自然を楽しむ環境づくり
- 自発的な保全活動の推進

住みやすいと感じる主な理由に「豊かな自然」を挙げる人の割合

59.3 % → 60.0 %  
2019 年度 → 2024 年度

## III 未来をつくる人が育つまち

自分たちのまちと世界の未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいるよう、自ら行動する人が育つまち。

今後 5 年間で取り組むこと

施策の指標（例）

### III-1 こどもも親も楽しく育つ環境をつくる

- こどもを安心して生み育てられる環境整備
- ニーズに対応した子育て環境の整備
- こどもも親も楽しめる遊べる場の整備

つくば市には安心してこどもを生み育てられる環境が整っていると感じる人の割合

59.1 % → 70.0 %  
2019 年度 → 2024 年度

### III-2 個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む

- 個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む学校教育の創出
- 魅力ある放課後の創出
- 就学前における子どもの遊びや体験の充実

将来の夢や目標を持つ児童生徒の割合

77.5 % → 80.0 %  
2018 年度 → 2024 年度

### III-3 多様性をいかした誰もが活躍できる社会をつくる

- 多様性をいかした社会の推進

自分らしく自分のやりたいことができる社会であると思う人の割合

55.7 % → 64.1 %  
2019 年度 → 2024 年度

## IV 市民のために科学技術をいかすまち

市民の日々の生活や地球環境をよりよくするため、科学技術の成果を最大限活用し、課題の解決に貢献するとともに、社会にイノベーションを生み出すまち。

今後 5 年間で取り組むこと

施策の指標（例）

### IV-1 知識集約によってイノベーションを創出する

- 新たな共創の仕組みづくり
- 社会実装の推進によるイノベーション創出

技術系の新規創業者数

40 件 → 50 件  
(2014 ~ 2018 年度実績合計) → (2020 ~ 2024 年度)

### IV-2 地元で頑張る組織や人が成長し続けるまちをつくる

- 地域産業人材の確保・定着の推進
- 地元企業等の新たなチャレンジの支援

新規創業に伴う新規就職者数

現状値なし → 390 人  
(2020 ~ 2024 年度)

### IV-3 市民のために新たな技術や価値を導入し、進化するまちをつくる

- 人とテクノロジーが共生するスマートシティの推進
- データで市民を豊かにするまちの推進
- 書かない・待たない・行かないデジタル窓口の推進

先端的な製品・サービスが暮らしの中にいかされていると思う人の割合

11.8 % → 50.0 %  
2019 年度 → 2024 年度

### IV-4 地球に優しくごみのない低炭素で循環型のまちをつくる

- 食品ロス削減に向けた意識啓発
- 再資源化、再利用化の推進
- 環境美化活動の推進
- 低炭素化の推進

1 人 1 日あたりの生活系ごみの排出量

695 g/人・日 → 668 g/人・日  
2018 年度 → 2024 年度